

令和三年歌会始御製御歌及び詠進歌

実

御製

人々の願ひと努力が実を結び平らけき世の到るを祈る

皇后陛下御歌

感染の収まりゆくをひた願ひ出で立つ園に梅の実あをし

皇嗣殿下

夏の日に咲き広ごれる稲の花実りの秋へと明るみてくる

皇嗣妃殿下

竹籠に熟るる黄色の花梨くわりんの実あまき香りは身に沁みとほる

眞子内親王殿下

烏瓜その実は冴ゆる朱の色に染まりてゆけり深まる秋に

佳子内親王殿下

鈴懸の木から落ちにし実を割りてふはふは綿毛を空へと飛ばす

正仁親王妃華子殿下

野鳥くる実のなる木々に植ゑかへて君は若かる庭師と語る

寛仁親王妃信子殿下

実りある日のくるためにながさるる汗は力となるを信ずる

彬子女王殿下

地図帳にあの日見つけし茶畑の不思議な点は茶の実のかたち

憲仁親王妃久子殿下

戸隠の森にはびこる蔓つるまきぎ 杖赤き実を食はむは眉茶まみちやしな 鶯か

承子女王殿下

自室より画面越しにて繋がりて旅せぬ集ひも実現したる

御 製

人々の願ひと努力が実を結び平らげき世の到るを祈る

天皇皇后両陛下には、昨年、世界全体で新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、多くの人命が失われ、現在まで引き続き世界中の人々が大きな試練に直面していることにお心を痛められています。こうした中、両陛下には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、困難に直面している多くの人々の状況をよりよく理解し、お心をお寄せになりたいとお気持ちで、様々な分野の専門家や、現場で対応に当たられている方々などからお話をお聞きになってもらいました。この御製は、天皇陛下が、人々の願いと、人々がこの試練を乗り越えようとする努力が実を結び、感染症が収束していくことを願われるお気持ちをお詠みになったものです。

皇后陛下御歌

感染の収まりゆくをひた願ひ出で立つ園に梅の実あをし

天皇皇后両陛下には、新型コロナウイルス感染症の発生以来、感染拡大の収束を心から願ってこられました。そのような中、感染拡大に伴う緊急事態宣言下にあった昨年五月に、皇后陛下には、お住まいのある赤坂御用地内の御散策にお出になった折、御所のお庭の先にある梅林で、梅の木々に実った実がいつの間にか青々と大きくなっていることに目を留められました。感染症の感染拡大で人々の日常が様々な面で大きく変わった世の中にあっても、それまでの年と同じように花を咲かせ、実を育んでいる梅の木に、変わらぬ自然の営みの力を感じになり、感慨深くお思いになりました。この御歌は、その時のお気持ちをお詠みになったものです。

皇嗣殿下

夏の日に咲き広ごれる稲の花実りの秋へと明るみてくる

秋篠宮皇嗣殿下は、ある夏の暑い日に、たまたま稲をご覧になりました。そこで、普段はあまり気にとめることはない稲に咲く花をよくご覧になると、いかにも奥ゆかしく開いていることに気付かれました。そして、見方によつては、控え目であるが故に秋に撓たわわに実る準備をしているようにもお感じになったそうです。そのような控えめに咲く稲花とうかをご覧になりながら、秋に黄金色の稲穂が豊かに実ることを願われた時のお気持ちを お詠みになりました。

皇嗣妃殿下

竹籠くわりんに熟るる黄色の花梨の実あまき香りは身に沁みとほる

秋篠宮皇嗣妃殿下は、皇嗣殿下とご一緒に赤坂御用地内をご散策になり、自然の移ろいをお楽しみになっています。春には美しいピンク色の花が咲いていた花梨の木は、秋にはたくさんの黄色の実を付けました。その熟した花梨の実を竹籠に入れると、辺りはほのかな甘い香りに包まれます。妃殿下は、籠の置かれたお部屋などで花梨の実の香りに安らぎをお感じになり、身近な自然の恵みをありがたく思われました。こうしたお気持ちをお詠みになりました。

眞子内親王殿下

烏瓜その実は冴ゆる朱の色に染まりてゆけり深まる秋に

眞子内親王殿下は、幼い頃から烏瓜の美しい色合いがお好きでした。季節が深まるにつれて烏瓜の実が秋の色に染められていくように見える様子をお詠みになりました。

佳子内親王殿下

鈴懸の木から落ちにし実を割りてふはふは綿毛を空へと飛ばす

佳子内親王殿下は、幼い頃に鈴懸の実を割って中の綿毛で遊ばれたことがありました。最近、同じ鈴懸の木の下にいらした折に、当時のことを思い出されて、歌にお詠みになりました。

正仁親王妃華子殿下

野鳥くる実のなる木々に植ゑかへて君は若かる庭師と語る

常陸宮殿下には、数年前まで週末や、お時間がおありになるとき、お帽子、サングラス、望遠鏡をお持ちになって、常盤松のお庭をご散策になっておられました。その際、妃殿下も時々お供をされることがありました。ある日庭の植木の手入れをしていた庭園課の職員と偶然にお会いになり、殿下ご自身で、野鳥や蝶が好む、実のなる木々や草花を植えて欲しいとお頼みになったことがありました。翌年には、野鳥や蝶が確かに増えて、木々に留まっていたり、舞っていたりしているのを嬉しうれそうにご覧うになっていたお姿を思い出して、このお歌を詠まれました。

寛仁親王妃信子殿下

実りある日のくるためにながさるる汗は力となるを信ずる

この度世界を襲った新型コロナウイルス感染症の禍に

わざわい

際して、医療現場や保健所、研究機関などを始め様々な関係機関において、多くの方々が、自己の健康・生活を犠牲にして、人々のため、社会のために、正に不眠不休で対応に当たられています。妃殿下におかれては、こうした新型コロナウイルス感染症対応の第一線で、感染の危険と隣り合わせで尽力されている方々のお話をお聞きになり、こうした方々を取り巻く状況に思いを致されつつ、地域社会や個人が衛生管理・健康管理の大切さをしっかりと自覚することの重要性を改めてお感じになりました。こうした思いの下、最前線で働く関係者の健康への願いと深い尊敬及び感謝の念を込められて、そして、一刻も早いコロナ禍の終息を祈られつつ、このお歌を詠まれました。

彬子女王殿下

地図帳にあの日見つけし茶畑の不思議な点は茶の実のかたち

学習院初等科の頃に地図記号の勉強をされていた際、神社など分かりやすい記号はたくさんありますが、茶畑の記号はなぜこの形なのか不思議に思っておられました。数年前、茶畑を見学させていただいた折、実際に茶の実を農家の方に見せていただき、記号の意味が大変よく分かったと詠まれたものです。

憲仁親王妃久子殿下

戸隠の森にはびこる蔓^{つる} 柎^{まひき} 赤き実を食^はむは眉^{まみ}茶^ち鶉^{やじない}か

長野県にある戸隠森林植物園に自生するツルマサキの赤い実を啄^{ついで}むマミチャジナイについて詠まれたお歌です。アカハラと思つて撮影なさっていた鳥が、実は、同じツグミの仲間でアカハラによく似たマミチャジナイでした。マミチャジナイを撮影なさつたのはこの時が初めてであり、嬉^{うれ}しく、記憶に残る出会いとしてその瞬間をお詠みになつたものです。

承子女王殿下

自室より画面越しにて繋がりにて旅せぬ集ひも実現したる

COVID-19の影響で日々たくさんの方の不便はありますが、オンラインへの移行が進んだことで、国際会議やイベントへのご出席、遠方のご友人方とのご交流など、時間的・距離的制約なく集えるという実りもあることに気が付かれたことを詠まれたお歌です。

召人 加賀乙彦

千年を生きむ樟くすの木が実在し巡りて子らは駈くすけつこをする

選者 篠 弘

野に棲めば己がからだは実みたされて銀杏いちやうもみぢ黄葉を両手に掬すくふ

選者 三枝昂之

軒下の甲州百目ひやくめまろやかにこのあめつちの実り明るむ

選者 永田和宏

若き日の実験ノートに残されて芙蓉のごとき歌の断片きれはし

選者 今野寿美

写実派が鳥の巢ねがきその底のたまごふたつの聖なる斑まだら

選者 内藤 明

いましばし眠りて待たむ茂り合ふ生命の樹に実の色づくを

選 歌 (詠進者生年月日順)

秋田県 柴田 勇

大学の実験室は旧兵舎窓辺に寄りて目盛を読みぬ

福井県 杉崎康代

見合ひ終へあなたの母から門前でゆすらの紅実あかみてのひらにうく

三重県 加藤京子

此処よりは世界遺産と言ふ森の土やはらかしぶな櫛の実落ちて

埼玉県 渡邊照夫

台風の進路予測を聴きながらまだ少し若い梨の実も穫る

神奈川県 松山紀子

実践に臨む瞳のあどけなさロボットはわが言葉聴きをり

東京都 石井豊彦

今日からは臨床実習の冬の朝少し足早に聖橋渡る

広島県 山本美和

シールドの向かうの客に釣り渡す架空のやうな現実にある

東京都 吉田直子

空白に史実のピース集めても想ひつかめぬ歴史のパズル

長野県 木下玲奈

せんせいと子らから呼ばれ振り返り実習生は先生となる

新潟県 藤井大豊

七限の書道の授業は「実」の文字最後の払ひに力を込める

佳 作 (詠進者生年月日順)

千葉県 藤井昌子

「実」みのるさんの頃出会ひしが正しき字「實」みのるに添ひて六十五年

愛知県 間瀬公朗

張りつめた静けさのなかひたすらにかつら剥きする実技の試験

宮城県 佐藤 毬

町名は昔のままに実在す三百人町^{まち}二十人町^{まち}

北海道 斎藤陽子

死に近き父にひと匙^{ふく}銜ませし野呂果実店の二月の西瓜

大阪府 櫛野 隆

ベランダにトマトピーマン植ゑました少しですけど実がなりました

徳島県 木内照代

朱^{あか}き実を目印にしてかまへたりレンズのなかに小鳥を待ちて

大阪府 武本千里

亡き父のつくつて呉れた実印がそれでいいよと背中を押した

山形県 佐藤照子

工場へ駆ける生徒の右の手に名前の入った実習帽子

東京都 佐伯なぎさ

いにしへの海を渡りし船のごと草の実つけて子は帰り来る

和歌山県 中尾加代

ツエルニーの三十番でもう辞^やめたピアノが実家の定位置にある

京都府 高橋武司

鞍馬^{くじま}なる林の中の露天湯に木の葉木の実のきえて雪ふる

茨城県 芳山三喜雄

覚えたてのタイ語の挨拶きつかけに始める養蜂実習初日

島根県 榑原有紀

真夜中に頭を撫でてくれたとき母さん実は起きてたんだよ

東京都 岩下 櫻

写真ではうつしとれないゆらめきも筆にのつけて届け誰かに

大阪府 東 陽向

真実を見つけることは難しい嘘をつくのは簡単なのに

山梨県 半田真那斗

すれ違ふ俺の気持ちと新ガット試行錯誤の実を結ぶまで

山梨県 中山美紅

富有柿二つ残った実を見上げ鳥の分だと祖父は微笑む

長崎県 久田桃香

実感がどうしてもない私が中学一年だといふことが